



にしく市民活動支援センター  
にしとも広場

## 2016（平成28）年度 事業報告書

管理運営：認定特定非営利活動法人市民セクターよこはま

### 目次

I. 運営方針 .....	- 2 -
II. 重点事業 .....	- 2 -
III. 事業報告 .....	- 3 -
1. 相談 .....	- 3 -
2. 情報提供・発信 .....	- 4 -
3. 活動ステップアップ・ネットワーク支援 .....	- 7 -
4. 地域支援 .....	- 14 -
5. 地域人材ボランティアバンク（生涯学習ボランティア「西区街の名人・達人」） .....	- 16 -
6. 区民利用施設等との連携による活動支援 .....	- 16 -
7. 場の提供・活用の周知 .....	- 19 -
8. 職員の育成および研修の取組 .....	- 22 -
9. 区役所との協働 .....	- 23 -

## I. 運営方針

区民や活動団体、地域施設等が、つながるきっかけを豊かに作り、互いの力を活かしあい、地域の課題解決や魅力アップに、より取り組みやすくなるよう、地域協働を進めました。

## II. 重点事業

### ●区内施設と連携した地域力アップに向けた仕組みづくりに取り組みました。

- ・昨年度まで実施していた施設連携会議の見直しを行いました。
- ・区内にある施設等が、顔の見える関係をさらに一歩進め、情報を共有し、地域の課題解決や魅力アップにつながる取り組みを、一緒に検討したり実施する会議を目指しました。各施設の所管課や関係機関とも連携しながら事前ヒアリングを実施しました。(地区センター2カ所、コミュニティハウス4カ所、図書館、スポーツセンター、地域ケアプラザ3カ所)
- ・3月に施設連携会議を実施し、区内22施設にお声掛けし、13施設が参加しました。

### ●地域活動に関わるきっかけづくりや、地域づくりの具体的なスキルアップに取り組みました。

- ・地域の具体的な課題解決や魅力アップにつながる事業を実施するスキルを学ぶ西区地域づくり大学校では、地域ニーズに沿ったテーマ「居場所づくり」に取り組みました。(区政推進課地域力推進担当との協働)
- ・生涯学習・市民活動支援講座「わが町、西区を知る」について、企画や当日運営の協力を行いました。(地域振興課生涯学習担当との協働)

### Ⅲ. 事業報告

#### 1. 相談

##### ◆相談者の背後にあるニーズを引き出す力の向上

相談対応の際には、相談者自身が課題の本質を見つけ、その解決に取り組むことができるような支援を目指しました。また相談者が、地域活動や市民活動の少し先を行く先輩とつながりをつくり、相談しあえる関係ができることを目指し、職員の相談対応力やコーディネート力を強化しました。

#### 実施したこと

##### 1) 相談できる場であることの周知、および情報の集約

- ・相談件数実績は、448 件となりました。(前年度 456 件)
- ・主な相談としては、「家にいることが多いので、近くに出かける先がほしい」「ボランティアを始めてみたい」「○○が得意なので何かに活かしたい」「イベントのチラシを置きたい」などがありました。
- ・2017年2月には、区役所内の区民ホールにて、パネル展示と庁内モニターでの放映を行いました。にしとも広場の活用方法のお知らせに加え、「よくある相談」などを掲示し、どのようなことを相談できるのかも具体的に周知しました。
- ・近くのお出かけ先としては、地区センターや地域ケアプラザでのイベントを紹介することがよくあるため、施設の情報をまとめたラックを新たに設置しました。このラックは、入り口付近に置き、手に取りやすいように工夫したほか、ラック上に地図を設置し、行動に移すための情報を得やすくなるよう工夫を行いました。



<区民ホールでの展示の様子>



<西区内の施設情報と地図の設置>

##### 2) 活動団体ヒアリング(および現場訪問)

- ・情報紙の取材や施設連携会議(p.16 掲載)の事前ヒアリングで、延べ148カ所を訪問しました。
- ・積極的に地域に出向き、活動現場を知り、顔の見える関係づくりを心がけました。地域で開催されるお祭りやイベント、「地域のつどい」などを訪問し、実際の活動を知ることで、相談があった際にも担当者とスムーズに連絡が出来たほか、活動の様子を具体的に案内することが出来ました。



<第6地区子ども食堂の様子>



<第4地区 みんなのまつりの様子>

### 3) 相談力の向上のための取組の実施

- ・職員全員で行う会議で、特に気になる相談事例を選び、対応について検討しました。
- ・相談力向上のため、西区内の施設の方を講師に招き、障がいのある方への対応研修を行いました。障がいのある方を取り巻く現状や症状についての知識を得るとともに、障がいのある方から相談があった場合に、連携し支援していく体制づくりにつながりました。

日時・場所	内容
2016年10月25日(火) 10:30~12:00 にしとも広場	「精神障がいのある方への相談対応」 講師:永瀬 誠 氏(生活支援センター西 所長)  ・精神障がいの基礎知識・関わりで気を付けている点など ・ケース検討(にしとも広場に相談のあった3事例) ・質疑応答

・他の市民活動支援センターの活動を参考とするため、3つのセンターの視察を行いました(2016年10月14日実施。戸塚区、藤沢市、藤沢市六会地区)。とつか区民活動センターでは、相談をきっかけに新規事業を始めた事例や、藤沢市民活動推進センターでは、登録用紙の項目を工夫し、団体運営のステップアップのきっかけとした例などを学びました。このことは、様々な場面で相談につなげるためのきっかけを作っていこうという相談対応に対する意識の統一につながりました。

## 2. 情報提供・発信

### ◆多様な主体と連携した情報提供・発信

地域で活動する際に必要な情報や、ステップアップにつながる情報を誰にでも手に取ってもらえるよう、紙媒体やホームページを用いて発信しました。

### 実施したこと

#### 1)ホームページでの情報発信

・今年度のトータル閲覧数は 20,559 となりました。最も閲覧数が多いページは、『街の名人・達人をさがす』(1,851件)、『センターのご案内』(1,423件)、『グループ団体をさがす』(1,400件)で、活動している団体を探すのに活用されていることがわかりました。

## 2) ホームページの改修

### ① デザインの改訂

- ・アクセス件数の多い「街の名人・達人を探す」「グループ・団体を探す」について、トップページにバナーを表示し、検索ページがわかりやすいように掲載しました。あわせて、「街の名人・達人」「グループ・団体」では、「探す」「登録する」などニーズに合わせたページを作成し、ニーズに合わせた閲覧がしやすいように変更しました。
- ・ホームページのタブへ「アクセス・お問合せ」を追加し、センターへのアクセシビリティの向上に努めました。
- ・トップページ画面上部に、ホームボタンを設置し、サイト内の移動をわかりやすくしました。
- ・スライドショー画像の管理ページを修正し、手続きを簡易化することで、日々更新しやすくなりました。

### ② コンテンツの拡充

- ・よく閲覧されている「街の名人・達人」「グループ・団体」について、検索ページを改訂し、複数分野をまたいだ検索ができるよう変更しました。
- ・「何かを始めたい」という方向けのページを作成しました。あわせてトップページへバナーで掲載しました。
- ・「にしとも広場のご案内」のページに「書式ダウンロード」の項目を設置し、利用に関する書式について、ひとめでわかるようにしました。
- ・「街の名人・達人を探す」「グループ・団体を探す」について、
- ・「リンク集」にて、区内施設に限らず、西区の近隣施設を追加したほか、「助成金を探す」「NPO 法人の申請をする」など、活動に役立つ情報もあわせて掲載を行いました。



<トップページ画像>



<検索ページ画像>

## 2) 情報紙『にしとも広場』の発行

- ・「個人の関心から広がる市民活動」をコンセプトに、年3回各 6000 部発行しました。
- ・掲載団体数を増やし、記事内容の一層の充実を図るためにページ数を 6 ページから 8 ページに増やしました。
- ・主に区内の活動団体や地縁組織、施設・学校などの取組みについて丁寧に取材し、活動の工夫や魅力的な点、課題などをわかりやすく発信しました。また、先進的な取り組みを行っている他区の取り組みも掲載することで、新しい視点や工夫への取り組みを提案しました。

### ①特集内容

第7号：「食べることは生きること。～食べることでつながるまちづくり～」

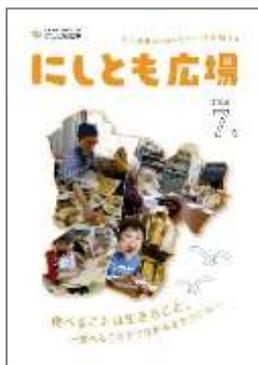
誰にとっても関心のある「食」を通して、世代を超えた地域の人たちが楽しく集える場づくりを行っている事例を取り上げました。

第8号：「人と本が生み出す出会いのはなし」

読書推進条例ができたことでも話題の「本」をテーマに、本を活用したボランティア活動や、本を用いた集いの場づくりを行っている事例を取り上げました。

第9号：「音楽が力になる」

コミュニケーションツールとしての「音楽」をテーマに、お子さんと一緒に演奏する活動、障がいがあってもなくても楽しめる活動や、誰でも定期的に参加できる集いの場の事例などを取り上げました。



<第7号>



<第8号>



<第9号>

### ②連動企画

第8号の連動イベントとして「本から始まる出会いの場づくり～本と本でつながろう～」を実施しました。

(p.12 掲載)

### ③配布先

- ・自治会町内会を通じた班回覧、生涯学習ボランティア、登録団体、西区内のNPO法人への発送の他、西区内の各施設および、駅構内のPRボックスに配架しました。
- ・西区民まつりなどで配布の他、地区ごとに行われる「地域のつどい」や「さくらフェスタ 2016」など区の事業とも連携し配布を行いました。
- ・西区子ども会育成連絡協議会、民生委員児童委員協議会、西区シニアクラブ連絡会、地区社会福祉協議会分科会にて配布を行いました。
- ・情報紙8号に有隣堂の方にコラムを書いていたことをきっかけに、有隣堂横浜西口ジョイナス店、有隣堂ルミネ横浜店に情報紙を置かせていただくことになりました。
- ・当センター事業「ツール・ド・にしく」に参加して下さったことが縁になり、横浜デザイン学院、また西区役所横にある喫茶店「クレオール」にも情報紙を置かせていただくことになりました。
- ・みなとみらい地区の3つのマンション(MM タワーズフォレシス、ブリアグランデみなとみらい、みなとみらいミッドスクエア ザ・タワーレジデンス)にも配架をお願いすることができました。



<有隣堂横浜西口 ジョイナス店の様子>

### 3)近隣商店や自治会町内会を活用した情報提供

- ・「西区地域づくり大学校」については、自治会町内会設置の掲示板で、その他の講座やイベントのチラシについては、「まちの掲示板」やサミット岡野店の掲示板を活用して広報しました。

### 4)展示スペースの活用

- ・情報紙などを用いて活用方法を周知したほか、活用方法の紹介の意味も兼ねて、当センターで行うイベントの案内をパネルで掲示しました。
- ・2016年7月18日～24日には、「横浜・藤棚シネマアートフェスタ2016」の一環として、映画ポスターを掲示しました。これらのポスターは商店街の店舗・近隣施設にも掲示しており、にしとも広場もスタンプラリー所のひとつとして、イベントに協力しました。
- ・西区民まつりでは、イベントに参加する「西区街の名人・達人」の紹介パネルを掲示しました。出演者の方にとっても、改めて活動紹介を見直すこととなり、終了後は作成したポスターを手元に置きたいという希望がありました。そのほか、情報紙第8号で取材した「よこはま布えほんグループ」の情報紙の記事と共に、実際に布絵本であるコーナーも設置しました。
- ・2017年3月22日～4月上旬には、戸部小学校5年1組による総合学習の発表として「えがお広がれ とべまちポスター展」(戸部大通り商店街のポスター展)を掲示しました。



＜横浜・藤棚シネマアートフェスタ2016  
スタンプラリーの様子＞



＜西区民まつりでの掲示の様子＞

### 5)広報よこはま西区版の活用

- ・2016年7月号に「西区地域づくり大学校」と「NPO 法人入門講座」の受講生募集の記事を掲載しました。
- ・2017年1月号に、「本から始まる出会いの場づくり」の参加者募集の記事を掲載しました。

## 3. 活動ステップアップ・ネットワーク支援

### ◆活動者や団体の次のステップに向けた支援

日々活動する団体に対して、ステップアップの機会や情報を提供しました。

### 実施したこと

#### 1)「NPO 法人入門講座—ちょっと気になるNPO—」講座の開催

- ・横浜市市民局市民活動支援課との協働で開催しました。

- ・20名定員のところ、27名の応募がありました。西区を中心に、保土ヶ谷区、神奈川区など他区からも申し込みが多く、NPO法人化に関する関心の高さが分かりました。
- ・おさん連れでも参加できるよう、NPO法人はぐっと「コアラの会」に依頼し、託児スペースを設けました。2組3名の利用がありました。
- ・講座アンケートでは21名の方にご記入いただきました。講座の内容について「大変満足」12名、「満足」9名となり、満足度が高い結果となりました。特に、丸山氏より事例紹介をいただいたことで、「運営についての具体的な話がきけてよかった。」「丸山さんの話が聞けて参考になった」という声が多くありました。

日時・場所	内容
2016年7月29日(金) 9:30~12:00 にしとも広場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイスブレイク:3人1組で自己紹介</li> <li>・第1部:NPO法人制度の概要/市民局市民活動支援課 奥村未緒</li> <li>・第2部:NPOってなんだろう? <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)NPO法人よくある疑問/にしとも広場 小山紳一郎</li> <li>(2)設立&amp;運営の体験談/認定NPO法人地球学校 丸山伊津紀氏</li> </ul> </li> <li>・質疑応答</li> </ul>



<NPO 法人入門講座の様子/写真左：丸山氏>

## 2)地域づくりの人材を養成する講座「西区地域づくり大学校(以下、西区地域大)」の開催

- ・本講座は、①講座後もつづく仲間づくり、②少人数制の連続講座、③講座終了後も、にしとも広場が継続的に受講生を応援することを特徴とし、全6回で実施しました。
- ・昨年度のアンケート結果で、多世代交流への関心が高かったこと、また、日頃より身近な地域でつながる必要性が高まっていることを背景に、今年度は「いろんな居場所のつくり方」をテーマとしました。そこで、26年間子どもの居場所・あそび場づくりの活動に携わっている、NPO法人れんげ舎代表の長田英史さんを講師にお招きしました。
- ・受講生同士のつながりや、受講後のフォローアップ体制を密にするため、今年度は15名定員としました。定員を上回る応募があり、抽選の結果、17名の方が参加しました。
- ・参加者の年齢は、30代から70代と、幅広い年代の方にご参加いただきました。内訳は下記の通りです。(30代2名、40代4名、50代4名、60代4名、70代3名)
- ・区政推進課との協働で開催しました。



<2016 年度募集パンフレット中面>



<第3講 紅梅気楽カフェ見学の様子>

### ①講座内容

	日時・場所	テーマ・内容
1	2016 年 9 月 3 日(土) 13:00-17:00 にしとも広場	『テーマ:どんな「居場所」をつくりたい?』 ・講義:「居場所ってなんだろう?」講師:長田英史 氏(NPO 法人れんげ舎代表) ・ワーク:①自己紹介タイム、②「思いの棚卸:生きているうちにやりたいこと 100」 ・ガイダンス (終了後、懇親会)
2	2016 年 10 月 8 日(土) 10:00-16:00 にしとも広場	『テーマ:地域でつくる、居場所のいろいろ』 ・講義:「自分の体験、身近なつながりの場をふりかえる」 講師:吉原 明香(認定 NPO 法人 市民セクターよこはま 事務局長) ・ワーク:「自分のこれまでをふりかえる」 ・第 3 講の見学先紹介および、希望票記入
3	2016 年 ①10 月 23 日(日) ②10 月 28 日(金) ③10 月 31 日(月) ④11 月 9 日(水) ⑤11 月 11 日(金) ⑥11 月 27 日(日)	『テーマ:実践者に聞く! 運営のキモ』 各回 2 時間程度。見学を行ったほか、活動についてのお話、質疑を行いました。 ①「紅梅気楽カフェ」(西区) ②「Café ハートフル・ポート」(旭区) ③「朝市サロン・野外サロン」(南区) ④「さかみち文庫」(南区) ⑤「芝の家」(東京都港区) ⑥「藍染子ども広場」(東京都文京区)
4	2016 年 12 月 10 日(土) 10:00-16:00 にしとも広場	『テーマ:これからどうする? 活動のステップ』 ・ワーク「第 3 講ふりかえり 見学先での体験を共有しよう!」 ・講義 場づくりのステップ(前半):どんな組織で活動していく? 場づくりのステップ(後半):コミュニケーションとしての会議のやり方 講師:長田英史氏(NPO 法人れんげ舎 代表)
5	2017 年 1 月 14 日(土) 13:00-17:00 にしとも広場	『テーマ:実行プラン応援します』 ・講義「実行プランの活かし方」 講師:吉原 明香(認定 NPO 法人 市民セクターよこはま 事務局長) ・助成金情報ほか 西区社会福祉協議会 事務局次長 三木渉 氏 ・実行プラン作成・グループで共有

6	2017年 2月25日(土) 13:00-17:00 にしとも広場	『テーマ:実行プランの発表&修了式』 ・実行プラン発表会 ・修了式 ・講座を振り返っての感想共有
---	--	---

## ②受講生アンケートより

来年度の計画・運営に反映させていくための基礎資料とするため、卒業式終了後にアンケートを実施しました(回答数:13名)。

講座の平均点は93.77点※となり、受講しての感想では「講座に参加したことで、想いは形にできる事を知り、自信につながった」「ここでの出会いは貴重だった、地域に出向いて活動はしていたが、『あの親子ふれあい会のサンタさんはこちらの方だった』などと西区をさらに深く知るきっかけとなった」「仲間に恵まれた」「自分の思いを文字に、スケジュールにし、何とかしなければという思いとなった。これからは大切」という声がありました。(※120点と回答した3名の方を100点に換算して計上)

また、「今回の講座はどのように活かそうでしょうか」という問いでは、「今まで自分の中で沸々としていた想いが実現できるかもしれないという実感に変わった」「実際の居場所づくりに平行しての学びだったため、会議のやり方、提案の仕方、そもそも活動するには何が必要か等が参考になった。すべて活かせるようにしたいと思う。」「どうにか一歩踏み出して勉強会をスタートした。今後どうやってネットワークを広げていくか課題が山積み」などの声がありました。

今後のサポート体制の強化として、講座後、受講生のプランを一覧化し、区役所にて課を横断する会議で共有を行いました。卒業生のサポートについては、今後の課題として検討を進めていきます。

## 3)生涯学習・市民活動支援講座の運営支援

- ・2014年度より地域振興課が実施している生涯学習・市民活動支援講座「男子厨房に入る会」の自主グループ化(グループ名:ぐるめ・にし)に際し、2016年度中の自主運営に向けて、年間8回の定例会ならびに会全体の運営に関する支援を行いました。
- ・今年度の活動目標の一つに「子どもとの料理交流で、地域に貢献する」ことを掲げ、浅間台小学校放課後キッズクラブ(5月16日)、西前小学校放課後キッズクラブ(12月15日)、戸部小学校放課後キッズクラブ(3月11日)との協働事業を実施し、当センターはその運営をサポートしました。



<ぐるめ・にし 7月定例会>



<西前小学校放課後キッズクラブとの料理交流>

- ・今年度新規で開催した生涯学習・市民活動支援講座「わが町、西区を知る」講座(全8回)について、横浜シティガイド協会とも連携しながら、企画から実施までの協力を行いました。

#### 4)活動者や団体をつなぐ、ネットワークづくり

・分野を超えた活動者(団体)のつながりづくりを行うため、下記の講座を実施しました。

##### ①「認知症になっても地域でイキイキと暮らせる西区(まち)になあれ～(認知症サポーター養成講座)」

- ・同じグループで活動している方が、認知症になっても活動し続けられる様に、厚生労働省の「認知症サポーターキャラバン」事業として行われている、「認知症サポーター養成講座」を実施しました。
- ・平日午後、土曜午後、平日夜と、働いている方も参加できる日時も設定し、同内容で3回実施しました。
- ・うち1回は、認知症のご本人の方に日本舞踊の披露をしていただき、ご家族からは「ご家族のお気持ち」をお話しいただきました。
- ・実施に当たっては、認知症キャラバン・メイトの方にご協力いただきました。認知症キャラバン・メイトのうち1人は、当センターで毎月認知症カフェ(わたぼうしカフェ)を開かれている方で、講座参加者の中には後日ご家族とともに、この認知症カフェに参加した方もいらっしゃいました。
- ・このエリアにある戸部本町地域ケアプラザの方にも来ていただき、相談場所の紹介や、参加者からのお悩み相談への対応にもつながりました。
- ・元々は活動団体向けに実施した講座でしたが、個人の方の参加が多く、団体のネットワーク作りにはつながりませんでした。その一方で、認知症キャラバン・メイトになったまま活動の機会がなかった方への活動機会の提供になりました。

日時・場所	内容
①2016年6月27日(月) 13:30～15:30	・認知症サポーターキャラバンとは(DVD) ・自己紹介タイム
②2016年9月4日(日) 13:30～15:30	・「認知症という病気を知ろう」(テキストと紙芝居を用いた講座) ・西区在住の認知症のご本人による踊りの披露
③2016年11月17日(木) 18:30～20:30 いずれも、にしとも広場	・認知症の人の気持ちと接し方 ・ご家族の体験談 など 協力: 西区内で活動する認知症キャラバン・メイト 参加者数:①11名、②12名、③5名



<認知症サポーター養成講座>

## ② 「技術よりも思考力！？デジカメでイ写真を撮る！」講座

- ・活動を魅力的に伝えることを目的に、撮影するにあたっての考え方や気をつける点を学びました。
- ・アンケートでは、「他の写真教室では教えていただけないようなテクニックが聞けて勉強になりました。イベントの際に役立てたいと思います。」「良い写真を撮るためには、事前の情報・準備がものをいうことが分かりました。条件をそろえて成功率を上げる努力をしたいと思います。」という感想がありました。
- ・参加者の多くは、活動団体に所属していたり、町内会活動で広報の活動をしている方でした。講座終了後には、カメラのグループで活動されている方から、講座参加者への活動参加の呼びかけがされたりもしました。

日時・場所	内容
2016年10月21日(金) 13:30~16:30 にしとも広場	講師：小菅聡一郎 氏 ・前半「考え方編」：写真を撮るうえでの準備について ・後半「実践編」：撮影依頼を仮定して、撮影のシミュレーションから実践で気をつける点について学びました。 ・ミニレクチャー：写真の保存方法、集合写真の撮り方、天井バウンスとは 参加者数：18名

<技術よりも思考力！？  
デジカメでイ写真を撮る！講座>



## ③ 「本から始まる出会いの場づくり～本と本でつながろう～」講座

- ・情報紙 8 号のテーマと連動した企画として実施しました。
- ・情報紙で紹介した方や活動の担い手をゲストに招き、情報紙には掲載しきれなかったお話を伺うことができました。またこのことは、情報紙に掲載した団体同士の出会いの場にもなりました。
- ・グループワークでは、区内で本を活用した場づくりをしたい方と区内で既に本を用いた活動をしている方が、出会い、一緒に話し合う場面を作ることができました。
- ・区内で活動するコーヒーボランティア「ほっと一息、コーヒータイム」を招き、コーヒーを提供していただいたことで、講座参加者の活動との連携を提案することができました。
- ・商店街に店舗を持つカフェの方からは、「持っている絵本を活用して何かを始めたい」、地域に拠点がある団体からは、「大人への絵本の読み聞かせやブックトークをしたい」というお話も出されました。

日時・場所	内容
2016年1月22日(土) 14:00～16:30 にしとも広場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演「マイクロライブラリーの楽しみ方」 磯井純充 氏（「まちライブラリー」の提唱者）</li> <li>・本を用いた集いの場づくりを実践している方々による座談会 中嶋伴子 氏（ふらっとステーションとつか） 五味真紀 氏（Café ハートフルポート） 小林圭子 氏（雀文庫みたか）</li> <li>・参加者交流会「本から始まる出会いの場をつくろう！」 参加者数:25名 ＜協力＞横浜中央図書館</li> </ul>



＜本から始まる出会いの場づくり～本と本でつながろう～ 当日の様子＞

#### 5) 西区民まつりへの参加

- ・すべてのプログラムを合わせて、205名の方に来館いただきました。
- ・西区内の活動者(La Seed、Yomyom!、米岡泰氏)との協働でプログラムを実施しました。企画、広報、当日のチラシ配布・宣伝、進行、実演を、「生涯学習を活用して地域のつながりづくりをめざす」というコンセプトを共有しながら、協働で行いました。
- ・事前準備や、当日のプログラムの実施では、総勢10名の地域の方にボランティアとしてサポートしていただきました。顔合わせ会や振り返り会などお互いを知る機会を設けたことで、ボランティア同士のつながりも生まれました。
- ・来館者の方に関係者と分かる目印とするため、ボランティアの方とスタッフの全員がバッジを身に付けました。ボランティアとの一体感にもつながりました。バッジは、西区にある就労継続B型作業所「さらい工房」にお願いし、作成してもらいました。

日時・場所	目的・内容
2016年11月6日(日) 10:00～15:00 にしとも広場 および	<p>目的:にしとも広場を知ってもらい、西区で活躍する方やグループを知ってもらい、活躍の機会・地域貢献の機会を広げてもらうこと</p> <p>内容:</p> <p>①ミニコンサート(参加総数:98名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「懐メロ広場」(合唱・体操。シニア世代対象)</li> <li>・「ちびとも広場」(パネルシアター、ダンス、音楽。親子対象)</li> </ul>

<p>にしとも広場前(屋外)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・La Seed、Yomyom!、米岡泰氏と一緒に企画から実施を行いました。</li> <li>②折り紙コーナー             <ul style="list-style-type: none"> <li>・米岡泰氏と、ボランティアのみなさまにご協力いただき、7 変化の折り紙や、かぶとなど、年齢に合わせて一緒に折り紙を行いました。</li> <li>・来館者の当センター滞留時間が増え、来館者とのコミュニケーションを図ることができました。</li> </ul> </li> <li>③展示コーナー             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニコンサートの出演者の紹介パネルを掲載しました。</li> <li>・情報紙第 8 号で取材を行った、「よこはま布絵本グループ」の方より、布絵本を 3 点お借りし、実物を展示しました。</li> </ul> </li> <li>④スタンプラリー             <ul style="list-style-type: none"> <li>・4 団体共催(にしく名・達の会／西区地域子育て支援拠点スマイル・ポート/藤棚 1 番街協同組合／当センター)</li> <li>・53 名の方に参加していただきました。</li> </ul> </li> </ul>
--------------------	---



<西区民まつりの様子>

#### 4. 地域支援

##### ◆エリアを絞り、若手が参画する地域活動の促進に向けて

4ヵ年実施した西区地域づくり大学校で得た、修了生や講師の方々とのネットワークや、蓄積されたノウハウなどをもとに、西区全域を対象とした地域づくり大学校を実施するだけでなく、連合自治会町内会エリアなど小地域でも相互の学びの場を設け、地域課題やノウハウの共有と共に、人の交流が促進されるような取組を進めていきました。

##### 実施したこと

1) 地域づくりの人材を養成する講座「西区地域づくり大学校(以下、西区地域大)」の開催(再掲 p.9)

2) まちを歩き、地域の資源を知る「ツール・ド・にしく」の実施

今年度は、地域振興課が実施する生涯学習・市民活動支援講座「わが町・西区を知る」と連動し、「商店街から見える暮らし・地域のつながりの歴史」をテーマに実施しました。

商店会長にご紹介いただいた、古くからお店を営む 2 軒の 3 代目にあたる、80 代の男性二人から、お店の歴史とこのまちの移り変わり(子どもの頃から見てきた、このまちの風景)について、そしてこのまちの一角にあり、このまちの生活にも深く根付いている岩亀稲荷の歴史についてお話を伺いました。

日時・場所	内容
2016年 9月6日(火) 14:00-17:00	「三代目が語るまちの記憶―戸部・岩亀横丁―」 ・「松本屋Yシャツ店」の歴史と岩亀横町の「講」のお話 お話:相澤義一 氏 ・岩亀稲荷をお参り ・「木村経師店」の歴史を通じて、横浜の生活史を知る お話:木村康夫 氏 案内人:大塚真司 氏 (戸部大通り商店会 会長) 参加数:16名



<三代目が語るまちの記憶―戸部・岩亀横丁―>

### 3) 「魅力的な地域活動を語ろう！～それぞれの力を活かすコーディネート～」講座

地域活動の大きな共通課題の一つである、これからの担い手について考える講座を実施しました。現役の地域活動の担い手である自治会町内会役員、民生委員・児童委員、テーマ型の活動者等にお声掛けし、40代～70代までの21名が参加しました。

日時・会場	内容
2017年3月18日(土) 9:30～12:30 にしとも広場	<講義> 1. 自治会町内会活動・市民活動の意義と課題 2. 元気な地域活動の事例紹介 3. 市民の自発性(内発的動機付け)を高める鍵 4. テーマ型とエリア型の活動の特徴 5. 多様な住民が参加できる仕組みづくり <グループワーク> ワールドカフェ「地域活動に参加する住民を増やすにはどうしたらよいか」 講師:早瀬昇氏(社会福祉法人大阪ボランティア協会 常務理事) 参加数:21名

## 5. 地域人材ボランティアバンク（生涯学習ボランティア「西区街の名人・達人」）

### ◆「自分の特技を地域のために活かしたい」という気持ちを大切に

身近にいる方々の経験やスキルが地域の中で活かされ、まちも人も相互に元気になることや、登録者の方々のスキルアップを図るため、当事業の活用方法の周知などに努めました。

### 実施したこと

#### 1)生涯学習ボランティア「西区街の名人・達人(以下、「生涯学習ボランティア」)」のコーディネート

- ・47件の依頼があり、そのうち成立は36件(成立率76.5%)でした。
- ・「西区街の名人・達人ガイドブック」ダイジェスト版を更新しました。
- ・登録者の特徴を活かしたコーディネートができるよう、活動先に出向いた他、当センターでパフォーマンスしていただく機会を設けるなど、実演を知る機会を持ちました(今年度訪問件数:20件)。
- ・西区民まつりでは、生涯学習ボランティアのコラボレーション企画としてコンサートを行いました。クラシック音楽のLa Seedさん、折り紙と男声合唱の米岡泰さん、地域で活動する子ども向け読み聞かせ団体のYom Yom!さんとともに、企画から当日の集客まで一緒に行いました。
- ・区役所内の区民ホールにて、生涯学習ボランティアのご紹介と共に、今年度の新規登録者のパネル紹介を行いました。同パネルの一部は、センター内の展示コーナーで展示したほか、「にしく名・達の会」主催の「西区街の名人・達人まつり」(2月25日)でも展示を行いました。



<登録者同士のコラボレーションによるコンサート  
(西区民まつり) >



<あけぼの会主催のわたぼうしカフェでの実演>



#### 2)「生涯学習ボランティア」のホームページ掲載情報の更新

- ・新規登録者については、登録後速やかにホームページに情報を掲載しました。また、冊子のダイジェスト版として登録名と活動内容を一覧化し、配布を行いました。
- ・コーディネート事例および新規登録者のリストを、ホームページに掲載しました。

## 6. 区民利用施設等との連携による活動支援

### ◆施設連携を新たなステージへ

これまで年2回実施してきた施設連携会議を見直すため、複数の施設に改めて現状と、施設連携会議の持ち方についてご意見を伺うヒアリングを実施しました。また、以前より、共催していただいている西区社会福祉協議会や関係部署とも意見交換を重ね、役割の違うそれぞれの施設がどのような形で連携することが、地域の人が活躍できる場が増え、より一層豊かで充実した生活を送ることにつながるかを検討しました。それを踏まえ、年度末に施設連携会議(2017年3月10日)を実施しました。

## 実施したこと

### 1) 区民利用施設等へのヒアリングの実施

下記の通り、ヒアリングを実施しました。現在の各施設の現状や他施設との連携の様子を伺い、共通のテーマを検討しました。今年度から指定管理者が変わった施設や、新たな人材が配置された施設もあることから、顔の見える関係の再構築の必要性を感じました。また、福祉系の施設には地域活動の担い手や地域の人々が気軽に集える場を求める声がある一方、地区センターやコミュニティハウス等の施設には多くの団体や個人が訪れ活動している様子が分かりました。このことから、双方が持つ情報や人材を持ち寄ることで地域の人々が活躍できる場が増え、より一層豊かで充実した生活となる可能性が見えてきました。また、施設ごとに利用者の年代が異なる場合があることも分かりました。それぞれに利用が少ない年代にアプローチしていきたいことを考えると、連携事業をすることで、互いに利用者の掘り起こしにつながる可能性があることも分かりました。

日時	ヒアリング先
10月7日(金)	軽井沢コミュニティハウス
10月20日(木)	稲荷台小学校コミュニティハウス 藤棚地区センター
10月24日(月)	戸部コミュニティハウス
10月31日(月)	西地区センター
11月4日(金)	中央図書館 浅間コミュニティハウス
12月2日(金)	西スポーツセンター
1月16日(月)	戸部本町地域ケアプラザ 藤棚地域ケアプラザ
2月3日(金)	宮崎地域ケアプラザ
2月14日(火)	浅間台地域ケアプラザ

## 2) 区民利用施設等との連携会議の実施

ヒアリングを経て、3月に連携会議を実施しました。区内22施設にお声掛けし、13施設が参加しました(地区センター、コミュニティハウス、集会所、地域ケアプラザ、福祉保健活動拠点、地域子育て支援拠点、図書館、スポーツセンター、老人福祉センター、地域活動ホーム、生活支援センター)。

当日は、講義や連携事例の紹介、グループワークで情報共有・意見交換をしました。また、茶菓子付きの休憩時間での交流や、当会議の名称を公募したことなどを通し、参加者が、より主体的に関われる工夫をしました。

アンケートからは、「他施設との情報交換が役立ちました。施設ごとの視点を聞けることは、連携する上で不可欠だと思います。」「日頃関わりのない施設の方と話をすることができた。自分の施設でできること可能性を考える良い機会となった。」という感想や、具体的な連携をつくるための取り組みを次回会議で期待する声が多く出されました。

日時・会場	内容
2017年3月10日(金) 13:00~16:30 にしとも広場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・趣旨説明</li> <li>・参加者自己紹介</li> <li>・講義「施設連携のメリットと可能性」 吉原明香（横浜市市民活動支援センター）</li> <li>・区内の連携事例紹介「みんなで楽しもう！大人への読み語り」 横浜中央図書館・藤棚地域ケアプラザ・西区社会福祉協議会</li> <li>・グループワーク</li> <li>・地域包括ケアシステムについて</li> </ul> 参加者：19名(13施設) <共催>西区社会福祉協議会



<連携会議の様子>

## 3) センター事業における区民利用施設等との連携

- ・「西区地域づくり大学校」の第5講では、西区社会福祉協議会から、助成金についてなどの支援制度の活用方法について話して頂き、受講生が活用方法を知る機会となりました。
- ・「認知症になっても地域でイキイキと暮らせる西区(まち)になあれ〜」(認知症サポーター養成講座)では、戸部本町地域ケアプラザに来ていただき、相談機関の紹介や、参加者からのお悩み相談への対応にご協力いただきました。(再掲 p.11)
- ・職員研修として実施した「障がいのある方への相談対応研修」では、生活支援センター西の所長にお越しいた

だきました。(再掲p.4)

- ・図書イベント「本から始まる出会いの場づくり～本と本でつながろう～」では、中央図書館の協力をいただき、当日もご参加いただきました。また、西区社会福祉協議会の講座をきっかけに生まれたコーヒーボランティア「ホッと一息コーヒータイム」にお越しいただき、参加者にコーヒーを提供していただきました。
- ・区民まつりの際に作成したオリジナルバッジは、「よこはま障害者共同受注総合センター」に紹介していただいた、区内の就労継続B型事業所「さらい工房」で作成していただきました。(再掲p.12)



<にしとも広場  
オリジナルバッジ>

#### 4)にこまちプラン推進部会への参加

福祉保健課と社会福祉協議会が事務局となっている「にこまちプラン推進部会」について、下記2つの部会へ参加しました。

##### ①ボランティア・市民活動部会(にこまちボランティアキャンプ)

- ・検討部会・見学を含め4回参画しました。部会の活動として、今年度は、団体の活動現場を訪問する「ボランティア体験ツアー」を企画・実施しました。ツアーの開催期間は、9月上旬から10月下旬で、訪問団体は6団体。ツアーの実施報告は、広報よこはま西区版(2016年12月号)と西区社会福祉協議会のウェブページに掲載されました。

##### ②児童部会

- ・今年度は、検討部会および勉強会、現地見学会へ計9回参画しました。部会の活動では、活動者を対象とした勉強会3回、活動見学会3回を行った後、今後の取組に向けて、ネットワークづくりの話し合いの場を設けました。

## 7. 場の提供・活用の周知

### ◆様々な人が集い、つながることで進化する場に

“人が賑わい、情報が行き交う”、“誰にとっても身近で親しみがある”、“気軽に利用できる”、こうした「広場」というイメージを利用者の皆さまに持っていただけるよう、居心地の良さを向上させ、コミュニケーションが活発に行われるよう、掲示やレイアウトなどを工夫しました。その結果、今年度の利用者数(※)は、延べ5382人、月別利用者数は平均449人となり、昨年度より増加しました(昨年度延べ4688人)。

※利用者数には、来館者数、印刷利用者数、機材貸出し件数、生涯学習ボランティアコーディネート件数、相談件数を含みます。

### 実施したこと

#### 1)誰もが立ち寄りたくなる場づくり

- ・居心地良く、ゆったりと情報収集や打ち合わせができるようキッズコーナーやカフェコーナーを設けました。
- ・入りやすい雰囲気になるよう、入口付近に「ウェルカムボード」や花を置き、外から見えるエリアにチラシラックを配置しました。チラシを手にとってゆっくり見られるように、新しくソファを設置しました。

- ・外にプランターを置き、種から育てたり、館内に季節にあわせた装飾品を置いたり講座案内のうちわを作成するなど、季節感を醸成しました。
- ・また外には掲示板を設置し、イベントのチラシを貼って、情報を提供するとともに、当センター内にはさらに情報があることをアピールして、当センターの利用を促しました。



<ウェルカムボードの例>



<センター内の植栽>



<キッズコーナーとソファ>



<12月の季節の装飾>

## 2) わかりやすいサイン掲示と居心地良さの向上

利用者の方々にとって、より活用しやすいセンターとなるよう、今年度は、下記のような工夫を追加で実施しました。

- ・センター内がやわらかい雰囲気になるよう、壁に木のイラストのウォールステッカーを貼りました。
- ・センター入口付近に、当センターの活用法やおすすめイベント情報などを掲載したボードを設置し、通行する方への周知に努めました。また、屋内、屋外に設置しているウェルカムボードには、当センターで出来ることや、機能が記載されたレイアウト図を掲示しました。
- ・助成金情報は従来の掲示板に加えてファイルを作成し、現在募集中の情報だけでなく、現在は募集期間でない情報も見られる様にしました。
- ・チラシラックの分類を見直し、特に相談の多い「西区内の地区・施設の情報」のラックを新設しました(再掲 p.3)。毎月更新を行うため、各施設を訪問したりメールなどで連絡を取り合い情報収集をしました。このことは、顔の見える関係づくりにもつながりました。
- ・職員研修として他の3つの市民活動支援センター(戸塚区、藤沢市、藤沢市六会地区)を視察し、レイアウトやチラシの配架、掲示の方法などの参考にしました。(p.22 掲載)



<ウォールステッカー>



<本棚と書籍>



<施設の情報のラック>

### 3)設備や什器の定期チェックによる事故防止の徹底

- ・チラン配架や回収の際に掲示物をチェックし、画鋏などが取れていないか常にチェックしました。
- ・月に2回の職員会議の際には、普段できないところまで清掃すると同時に、椅子のねじ等にゆるみがないかなど、定期的に安全面の確認をしました。

### 4)活用の周知

- ・西区に転入した方へ戸籍課が配布する資料(引越しセット)に、にしとも広場のパンフレットを同封しました。
- ・区民ホール前の庁内モニターにて、センターの案内の掲示を行いました。(2016年8月1日～14日、9月1日～14日、2017年2月1日～16日)
- ・「西区街の名人・達人まつり」(2017年2月25日)にて、にしとも広場の紹介パネルを展示しました。(再掲 p.16)
- ・区民ホールを利用して、センターや相談事業について周知しました。(再掲 p.3)
- ・センター入口付近に、当センターの活用法やおすすめイベント情報などを掲載したボードを設置し、通行する方への周知に努めました。また、屋内、屋外に設置しているウェルカムボードには、当センターで出来ることや、機能が記載されたレイアウト図を掲示しました。(再掲 p.20)

### 5)利用者アンケートの実施

当センターの運営についてのご意見を集めるため、来館された方々とグループ・団体、生涯学習ボランティアとして登録している方々に郵送でアンケートを実施しました。

#### ①利用者アンケート(来館者アンケート)

実施期間:2016年12月8日(木)～2016年12月27日(火)

対象者:にしとも広場来館者(のべ248名)

回答数:86

配布・回収方法:来館者に手渡しし、その場で記入していただき回収。

#### ②“にしとも広場”機能向上に向けたアンケート(グループ・団体向けアンケート)

実施期間:2016年12月8日(木)～2016年12月27日(火)

対象者:当センターに登録しているグループ団体(126団体)、「生涯学習ボランティア」(102団体・個人)、

西区内に主たる事務所があるNPO法人等(76団体)

回答数:22

配布・回収方法:郵送にて送付(情報紙同封)。FAXまたはメールにて回収。

当センターの利用目的や使いやすさ、ホームページや情報紙についてのご意見を伺いました。その中で皆さんからのご意見を参考に、「休館日は今まで通り水曜日」、「情報紙は、今までのものとは別に、発行頻度を上げた簡易版を定期的に発行する」、「講座・イベントのさらなる充実」に向けて取り組んでいくことになりました。

## 8. 職員の育成および研修の取組

### ◆ 日頃からのコミュニケーションを大切に

にしとも広場の運営で大切にしている「仲間感」は、人と人との丁寧なコミュニケーションであると考え、接遇について見直すと共に、当事者性や相互性などをもとにした、職員の学びを深めました。また防災など安全面にも配慮した職員研修を行いました。

### 実施したこと

#### 1)「活動団体ヒアリング」の実施(再掲 p.3)

・当事者性や現場性を大切に業務に取り組むために、活動団体ヒアリング(現場訪問)を実施しました。

#### 2)相談力向上のための研修の実施(再掲 p.4)

・「障害のある方への相談対応」として、生活支援センター西所長の永瀬誠さんにお話を伺いました。あわせて、にしとも広場に相談のあった事例についてケース検討を行いました。

#### 3)防災・減災、防犯、個人情報保護などに対応したマニュアル作りや実地研修の実施

- ・昨年度検討した内容を基に、「緊急時対応マニュアル」を作成しました。
- ・防災対策の備品を整備し、年1度点検する仕組みを整えました。
- ・個人情報保護に関する研修を実施するとともに、日々の業務の中における情報漏えいを起こさない仕組みを全員会議で点検しました。
- ・法人が実施した AED や心肺蘇生法の研修に参加しました(2017年2月28日)。

#### 4)他区の区版支援センターとの情報交換および交流、研修への参加

- ・横浜市市民活動支援センターが実施する研修およびネットワーク会議に参加し、他区の事例を学びました。
- ・相鉄沿線6区市民活動支援センター会議に参加し、共通する課題を検討するとともに連携を深めました。
- ・他区他都市のセンター(戸塚区、藤沢市、藤沢市六会地区)に見学に行き、他のセンターの状況や工夫を学びました。

#### 5)外部研修への参加

- ・各職員が、外部研修に参加するなどしてスキルアップを図る機会を積極的に設けました。
  - ・常勤、非常勤合わせて合計26回の外部研修に参加しました。
- (参加例:中間支援力アップ研修、ローカルメディア講座、認知症カフェフォーラム ほか)

## 9. 区役所との協働

### ◆ 地域振興課および、関係課とのさらなる連携をすすめます。

センターが「区民のつながりを育み、力を活かし合う地域協働の総合拠点」となるべく、地域振興課を中心とした区役所との協働をすすめました。

### 実施したこと

#### 1) 日常的な「報・連・相」や定例会議で成果や課題を丁寧に共有

毎月1回、定例会議を実施しました。事業の進捗状況の確認の他、懸案事項についての意見交換等を行いました。また、定例会議以外でも、気になったことは、お互いに相談し合うなど、丁寧に共有する機会を設けました。

#### 2) 協働契約書を締結し、センター事業の目的の共有と双方の強みを活かした運営の実現

お互いの強みを活かした運営となるよう、役割を細かく話し合い、文言に齟齬がないかどうか話し合ったうえで、「にしく市民活動支援センター運営事業 協働契約書」を締結しました。

#### 3) 区役所と当法人理事との組織同士の会議で、センター運営の方向性や共有のしくみを検討

地域振興課と当法人の事務局長および担当理事との会議で、当センターのよりよい運営のために、次年度より、定期的に運営全般について共有する等の仕組みについて話し合いました。

#### 4) 西区役所関係課や他の支援機関との連携・協働の実現

- ・事業の企画や実施においては、地域振興課のみならず、関係課や他の支援機関と連携協働し、さらに充実した事業の実現につなげました。
- ・施設連携会議の実施については、西区社会福祉協議会、福祉保健課と連携を取りながら進めました。
- ・地域支援事業については、地域情報を多く持つ区政推進課や福祉保健課に相談し、情報収集しながら進めました。
- ・認知症サポーター養成講座では、高齢・障害支援課や戸部本町地域ケアプラザと連携しました。

#### 5) にしとも広場運営に関する協働のふりかえりを実施

年度終了後には、事業報告をもとに「協働に関する相互検証シート」を作成し、にしく市民活動支援センター運営事業における西区との協働の取組を振り返りました。